

# 高島各地にある大名飛地領

## 市内の大名飛地領

江戸時代の高島市域は、大溝藩分部氏が南部地域の大半を治め、鎌倉時代から続く朽木氏が旗本として朽木地域と今津地域の一部を治めていました。その他の地域では、幕府の直轄地（天領）や他藩大名や旗本の領地（飛地領）が多く入り混じっていました。市内の大名飛地領の例としては、膳所藩（大津市）、堅田藩（大津市）、小浜藩（福井県小浜市）、甲府藩（山



梨県甲府市）、館林藩（群馬県館林市）、郡山藩（奈良県大和郡山市）、加賀藩（石川県金沢市）などがあげられます。ここでは加賀藩の飛地領について紹介していきます。

## 加賀藩領

加賀藩の前田氏は、今津町今津・弘川、マキノ町海津の一部に飛地領をもっていました。加賀藩の領主支配は、豊臣秀吉から前田利家に、京への往来のための宿泊地として今津と弘川が与えられたことから始まります。今津は北国海道・九里半街道が通る交通の要衝で、利家の上洛の際や三代藩主利常の大坂の陣の出兵時にはここを経由していたと伝えられています。飛地領では在地の代官が支配を行うことが多く、

梨県甲府市）、館林藩（群馬県館林市）、郡山藩（奈良県大和郡山市）、加賀藩（石川県金沢市）などがあげられます。ここでは加賀藩の飛地領について紹介していきます。

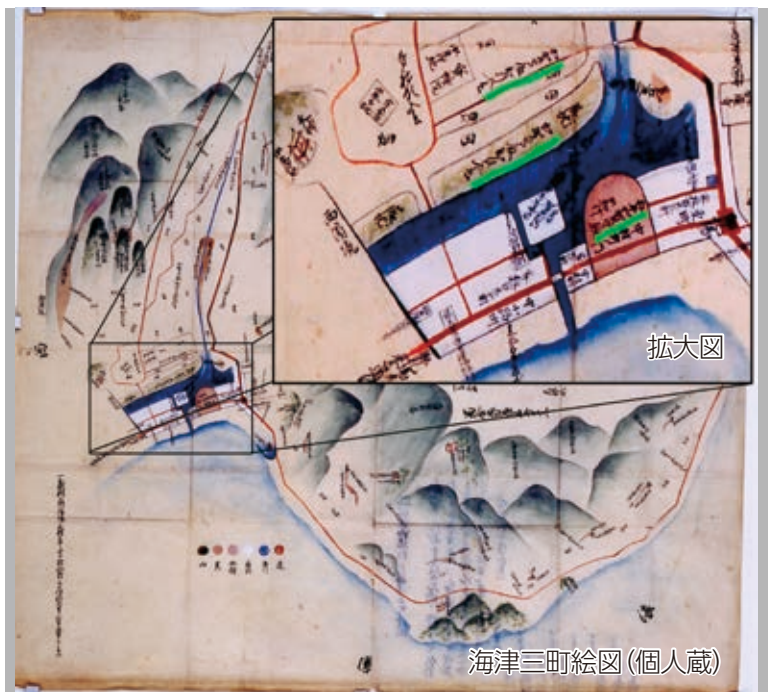


今津村では河原林甚右衛門が住吉神社付近に代官所を設け高島市内の加賀藩領の支配を行っていました。代官所内には蔵屋敷が設けられており、その蔵屋敷を波から守るための石積みが整備されていました。今も中浜周辺には、当時の石積みが残っています。代官を

担った河原林家は前田家から今津姓を名乗ることを許され、その今津家の墓が今も今津町天神に残っています。

## 海津の絵図に残る加賀藩

また、江戸時代の海津のようすを描いた海津三町の絵図(個人蔵)にも加賀藩の名前が記されています。この絵図からも、海津の一部が加賀藩の所領となっていたことが明らかとなっています。



拡大図

海津三町絵図(個人蔵)

文化財課 (32) 4467

## 編集雑感

ふと空を見上げると、青空にまるで絵に描かれたような大きな入道雲がよくみられるようになりましたね。最近仕事で写真を撮ることが多くなり、今まで何気なしで見っていた風景から季節の変わりをよく感じさせられます。

企画広報課では、写真・イラストを募集しています。みなさんの季節を感じる一枚をぜひご共有ください！

今年の夏は例年よりも暑くなるそうなので、夏バテ、熱中症には十分注意して、夏を満喫してくださいね。(A)